

令和 **5** 年度 年間授業計画 教科 **人間と社会** 科目 **人間と社会**

教科： **人間と社会** 科目： **人間と社会** 単位数： **1** 単位

対象学年組： 第 **1** 学年

使用教科書：	「人間と社会」（東京書籍）
--------	---------------

教科 **人間と社会** の目標：

【知識及び技能】	一人の人間として培ってきたものの見方や考え方を働かせ、様々な場面において行動を選択することができる資質や能力を講義や体験活動を通じて育成する。
【思考力、判断力、表現力等】	社会に生きる構成員として、ある課題に対して他者の意見を傾聴し、お互いの価値観を高めることで、道徳性を養い、社会で協働する資質を演習などを通じて育成する。
【学びに向かう力、人間性等】	社会的現実を照らして、様々な場面で妥当な判断基準を設定できるように、主体的にかかわる素養を培う。

科目 **人間と社会** の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、その解決に向けて必要な知識や技能を身につける。	社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるように、自己と社会との関わりから課題を見出し、情報を収集し、それらを整理・分析して、多面的・多角的に考察する力を養う。	演習や体験活動に主体的に・協働的に取り組むことにより、人間としての在り方・生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当時数
<b>単元 1</b> 序章オリエンテーション（体験の説明）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
教科「人間と社会」の目的とその意義を理解する。	教科「人間と社会」を学ぶ意義を理解する。	教科「人間と社会」を学ぶ目的を理解している。				
【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	1
教科「人間と社会」の目的とこの授業を通して培う力を確認する。	教科書	教科「人間と社会」で自分に生まれる気づきを言葉にできる。				
【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
教科「人間と社会」の目的とこの授業が今後どんな役に立つのかを意識する。	意見交換	教科「人間と社会」の主旨に基づき、人間性を深める態度が見受けられる。				
<b>単元 2</b> 地域と連携した防災訓練（体験活動）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
初期消火や家具転倒防止の術などを学ぶ。	地域の方々や協働して防災の意識を高める。	自助のための必要最低限な知識を有している。				
【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	2
状況に応じて冷静に命を守る行動ができる判断する力を養う。		自助・共助を成し遂げるために、的確に状況を把握し、自分の考えを言葉にできる。				
【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
他者を助けるために、まず自分が無事であるという視点に立ち行動するよう意識する。	レポート	自助・共助を成し遂げるために、他者と協働しながら物事を進めようとしている。				
1 学期						
<b>単元 3</b> 演習（12章支え合う社会）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
教科書の演習を通して、必要最低限なすべきことを理解する。	教科書の演習を通して自助・共助について学ぶ。	自助のための必要最低限な知識を有している。				
【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	2
演習の事例での話し合いを通して、自分の考え方を他者と共有し、客観的な視点で自分の意見をとらえてみる。	教科書	自助・共助を成し遂げるために、的確に状況を把握し、自分の考えを言葉にできる。				
【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
他者と協働することで、よりよい共助に結び付くことができることを理解する。	意見交換	自助・共助を成し遂げるために、他者と協働しながら物事を進めようとしている。				
<b>単元 4</b> 演習（14章自然と人間の関わり/15章科学技術と生命健康）	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
教科書の演習を通して、科学技術の素晴らしさと、見落としがちな視点を理解する。	講演を聞いて科学技術の奥深さに気付く。	科学技術のメリット・デメリットを自分の言葉で説明できる。				
【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】	○	○	○	4
演習の事例での話し合いを通して、自分の考え方を他者と共有し、客観的な視点で自分の意見をとらえてみる。	プリント	科学技術のメリット・デメリットについて他者と意見を交換し、自分の考えを言葉にできる。				
【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用（場面）	【学びに向かう力、人間性等】				
他者と協働することで、科学技術の普及に寄与することができることを理解する。	レポート	科学技術のメリット・デメリットについて他者と意見を交換する準備があり、他者に意見を傾聴できる。				
定期考査はありません						

令和 5 年度 年間授業計画 教科 人間と社会 科目 人間と社会

教科: 人間と社会 科目: 人間と社会 単位数: 1 単位

対象学年組: 第 1 学年

使用教科書:	「人間と社会」(東京書籍)
--------	---------------

教科 人間と社会 の目標:

【知識及び技能】	一人の人間として培ってきたものの見方や考え方を働かせ、様々な場面において行動を選択することができる資質や能力を講義や体験活動を通じて育成する。
【思考力、判断力、表現力等】	社会に生きる構成員として、ある課題に対して他者の意見を傾聴し、お互いの価値観を高めることで、道徳性を養い、社会で協働する資質を演習などを通じて育成する。
【学びに向かう力、人間性等】	社会的現実を照らして、様々な場面で妥当な判断基準を設定できるように、主体的にかかわる素養を培う。

科目 人間と社会 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、その解決に向けて必要な知識や技能を身につける。	社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるように、自己と社会との関わりから課題を見出し、情報を収集し、それらを整理・分析して、多面的・多角的に考察する力を養う。	演習や体験活動に主体的に・協働的に取り組むことにより、人間としての在り方・生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当時数	
単元 5 講話(体験学習について)	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。					
	【知識及び技能】 ・指導事項 科学を普及することの意義を学び、科学者の夢として活かせることを学ぶ。	体験を通して科学技術に対する問題意識を養う。	【知識及び技能】 科学技術の普及に関する話を聞いて、その課題について理解できている。				
	【思考力、判断力、表現力】 ・教材 科学の楽しさをわかりやすく伝えるために、どんな見せ方や提示の仕方が適当なのかを他者と意見交換する。	教科書	【思考力・判断力・表現力】 科学技術の普及について、その課題を他者と話し合い、よりよくしていくアイデアを共有している。	○	○	○	2
	【学びに向かう力、人間性等】 ・一人1台端末の活用(場面) 科学が幼い世代にも普及していくために、どのように自分が関わるべきかを他者との関わりで深める。	意見交換	【学びに向かう力、人間性等】 科学技術の普及について、その課題達成のために他者をうまく取り込もうとしている。				
単元 6 体験活動(「科学の祭典」)	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。					
	【知識及び技能】 ・指導事項 体験活動を通して、幼い世代に対して効果的に科学の楽しさを伝える術を学ぶ。	祭典でのボランティアを通して科学技術の普及に寄与する。	【知識及び技能】 科学技術の面白さを体験活動を通して、見学者に伝える言葉や方法を持っている。				
	【思考力、判断力、表現力】 ・教材 科学の楽しさをわかりやすく伝えるために、様々な見せ方や提示の仕方を工夫して実行してみる。		【思考力・判断力・表現力】 科学技術の面白さを体験活動を通して、他者との関わりの中で深め、ひとつの展示として表現できている。	○	○	○	5
	【学びに向かう力、人間性等】 ・一人1台端末の活用(場面) 参加者の表情や感想を通して、自分たちの取組が他者に対して有効なものであったかを確認する。	レポート	【学びに向かう力、人間性等】 科学技術の普及について、その課題達成のために他者をうまく取り込もうとしている。				
2 学期	定期考査はありません						
単元 7 体験活動(「多摩未来祭」)	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。					
	【知識及び技能】 ・指導事項 体験活動を通して、幼い世代に対して効果的に科学の楽しさを伝える術を学ぶ。	科学技術の面白さを見学者に広める。	【知識及び技能】 科学技術の面白さを体験活動を通して、見学者に伝える言葉や方法を持っている。				
	【思考力、判断力、表現力】 ・教材 科学の楽しさをわかりやすく伝えるために、様々な見せ方や提示の仕方を工夫して実行してみる。		【思考力・判断力・表現力】 科学技術の面白さを体験活動を通して、他者との関わりの中で深め、ひとつの展示として表現できている。	○	○	○	6
	【学びに向かう力、人間性等】 ・一人1台端末の活用(場面) 参加者の表情や感想を通して、自分たちの取組が他者に対して有効なものであったかを確認する。	レポート	【学びに向かう力、人間性等】 科学技術の普及について、その課題達成のために他者をうまく取り込もうとしている。				
単元 8 演習(1+道徳と人間の関わり/1+道徳と科学技術と生命倫理)	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。					
	【知識及び技能】 ・指導事項 教科書の演習を通して、科学技術の素晴らしさと、見落としがちな視点を理解する。	講演を聞いて科学技術の奥深さに気付く。	【知識及び技能】 科学技術のメリット・デメリットを自分の言葉で説明できる。				
	【思考力、判断力、表現力】 ・教材 演習の事例での話し合いを通して、自分の考え方を他者と共有し、客観的な視点で自分の意見をとらえてみる。	プリント	【思考力・判断力・表現力】 科学技術のメリット・デメリットについて他者と意見を交換し、自分の考えを言葉にできる。	○	○	○	6
	【学びに向かう力、人間性等】 ・一人1台端末の活用(場面) 他者と協働することで、科学技術の普及に寄与することができることを理解する。	レポート	【学びに向かう力、人間性等】 科学技術のメリット・デメリットについて他者と意見を交換する準備があり、他者に意見を傾聴できる。				
定期考査はありません							

令和 5 年度 年間授業計画 教科 人間と社会 科目 人間と社会

教科: 人間と社会 科目: 人間と社会 単位数: 1 単位

対象学年組: 第 1 学年

使用教科書: 「人間と社会」(東京書籍)

教科 人間と社会 の目標:

【知識及び技能】	一人の人間として培ってきたものの見方や考え方を働かせ、様々な場面において行動を選択することができる資質や能力を講義や体験活動を通じて育成する。
【思考力、判断力、表現力等】	社会に生きる構成員として、ある課題に対して他者の意見を傾聴し、お互いの価値観を高めることで、道徳性を養い、社会で協働する資質を演習などを通じて育成する。
【学びに向かう力、人間性等】	社会的現実を照らして、様々な場面で妥当な判断基準を設定できるように、主体的にかかわる素養を培う。

科目 人間と社会 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、その解決に向けて必要な知識や技能を身につける。	社会的現実を照らし、よりよい生き方を選択することができるように、自己と社会との関わりから課題を見出し、情報を収集し、それらを整理・分析して、多面的・多角的に考察する力を養う。	演習や体験活動に主体的に・協働的に取り組むことにより、人間としての在り方・生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
単元 9 演習「1.4 進歩と人間の関わり」(多摩科学技術と生命倫理)	指導項目に対し、次の教材等を活用する。 ・指導事項 講義を聞いて科学技術の奥深さに気付く。	次の観点別評価規準に従い評価する。 【知識及び技能】 科学技術のメリット・デメリットを自分の言葉で説明できる。				6
【知識及び技能】	・教材 プリント	【思考力・判断力・表現力】 科学技術のメリット・デメリットについて他者と意見を交換し、自分の考えを言葉にできる。	○	○	○	
教科書の演習を通して、科学技術の素晴らしさと、見落としがちな視点を理解する。	・一人1台端末の活用(場面) レポート	【学びに向かう力、人間性等】 科学技術のメリット・デメリットについて他者と意見を交換する準備があり、他者に意見を傾聴できる。				
単元 10 まとめ(発表)	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				1
【知識及び技能】	・指導事項 1年間を通して学んだことを発表する。	【知識及び技能】 1年間を通じて、教科「人間と社会」を学ぶ目的を理解し、知識や技能の向上が見られる。	○	○	○	
【思考力、判断力、表現力】	・教材 教科書	【思考力・判断力・表現力】 1年間を通じて、教科「人間と社会」で自分に生まれる気づきを言葉にし、他者に受容されている。				
【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用(場面) 発表	【学びに向かう力、人間性等】 1年間を通じて、教科「人間と社会」の主旨に基づき、人間性を深める態度が見受けられた。				
3 学期	単元 11	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				
【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用(場面)	【学びに向かう力、人間性等】				
単元 12	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	次の観点別評価規準に従い評価する。				
【知識及び技能】	・指導事項	【知識及び技能】				
【思考力、判断力、表現力】	・教材	【思考力・判断力・表現力】				
【学びに向かう力、人間性等】	・一人1台端末の活用(場面)	【学びに向かう力、人間性等】				
定期考査はありません						